

健康里から づくりの

町職員対象 認知症サポーター養成 講座を開催しました

認知症を正しく理解し、認知症の方や家族を支援するための講座を町職員対象に開催しました。認知症に関する基礎知識を学び、「もし窓口で認知症の方が来られたら」という寸劇を通して、認知症の方への対応を職員同士で話し合いました。

認知症の有無に関わらず、その方に合わせた窓口での対応を、心掛けていきます。



認知症サポーター養成 講座を開催しませんか

仲間同士の勉強会や地域の集い、職場での研修、学校の授業など、受講者に応じた内容で開催します。

- ◆時間 60分～90分程度
(学校は授業時間に応じて)
- ◆内容 認知症の基礎知識、接し方、予防の方法など
- ◆講師 キャラバン・メイト
(研修受講者)
- ◆費用 無料
- ◆申込 日時・会場・参加見込み人数(5人以上でお願いします)を決めたうえで、お申し込みください。

問い合わせ
保健福祉総合センター内
地域包括支援センター
☎80-3155



お薬手帳はお持ちですか？
血圧の薬、糖尿病の薬、コレステロールの薬を飲んでいるという事はわかっているても薬剤名を正確に伝えられる方は少ないのではないのでしょうか。お薬手帳は患者さんに処方されたお薬の名前や飲む量、回数などを記録するための手帳です。この記録がありますと、医師・歯科医師や薬剤師が、どのようなお薬をどのくらいの期間使っているのかが判断できます。

お薬手帳



国保東庄病院
ほそだ てるし 薬剤師
細田 晃司

他の病院や医院などでお薬を貰うときにも、医師や薬剤師にお薬手帳をみせることで、同じお薬が重複していないか、飲み合わせ等についても確認できます。例えば同じ降圧剤でも、サイアザイド系、β遮断薬、Ca拮抗薬、ACE阻害薬、ARBといろいろな細かい効き方に分れています。お薬手帳で、どの降圧剤を服用しているかがわかれば他の病院や他の科にかかっても

より安心安全なお薬で最適な処方が可能になります。病院ごと薬局ごとにお薬手帳を作っている患者さんもあるようですが、お薬手帳は一冊にまとめておきましょう。それから、お薬手帳には処方されたお薬を記録するだけではなく、副作用が起きたことのある薬の記録や食べ物アレルギーを記載するところもあり副作用の再発を未然に防ぐことができます。旅行や災害、急に具合が悪くなったときに自分の薬の状況を正確に伝えることができます。東日本大震災



では、医療機関や薬局が、津波被害等により患者カルテや服薬歴が無くなりしました。そのような環境の中、お薬手帳の活用により、スムーズかつ適切に医薬品が供給され、適切に医療が提供される場面が多く見受けられたそうです。
お薬手帳は病院・医院・処方せんを持って行った薬局で作ってもらえます。病院や薬局に行く際は、必ず持参しましょう。平成28年4月からの医療制度変更で、スマートフォンで電子版のお薬手帳(お薬手帳アプリ)が利用できるようになりました。詳しくはお薬手帳提供機関でお尋ねください。
問い合わせ
東庄病院 ☎1177



東庄病院の診療日

内科	月～金曜日の午前および第1・第3土曜日の午前
整形外科	毎週火曜日の午前(予約制)

(受付時間は午前11時まで)

※救急患者については、休診日および時間外でも24時間体制で診療しますので、電話連絡のうえ来院してください ☎86-1177